

平成17年撮影

①「有志竟成」の碑





昭和54年12月に台湾の卒業生の黄兄弟の招請を受けて当時の藤田校長を団長とした9名が台湾を親善訪問した記念に兄の黄駿達氏(昭和17年農林科卒)から台湾のタロコ峡谷から産出した大理石に黄氏が「有志竟成」と達筆で書かれた碑が贈られた。「志があれば何でもできる」という意味で、後輩たちへの激励の言葉として寄贈された。

②創立80周年記念碑



石碑の碑文は「**創造・先見」**で当時の平井 龍知事の揮毫によるものである。

碑が設置された。

が見えにくく不自然であることからこの記念

3畜魂碑



4創立100周年記念沿革碑



⑤旧直壳所(2代目)



本校直売所は平成3年5月 13日にオープンした。

生徒が農産物の納品、陳列、値札書き、販売、会計 処理など実際の販売体験 を目的に始まった。

直売所の運営は授業の中で生徒が消費者の立場になった接客・サービスも身に付け、社会人としての基本的な態度も学ぶ機会となっている。

写真は、平成13年の山口「きらら博」で使用され、終了後、会場内で「ビオトープみずみずハウス」として使用されていた建物を譲り受け、山小屋風にアレンジして平成14年5月28日にオープンした。

⑥農高夢市場(直売所)



平成23年4月に大津緑洋高等学校の開校とともに、老朽化していた2代目直売所に代わって、旧山口県農林事務所の跡地に3代目直売所を建設。

同年8月に直売所の名称も「農高直売所」から「農高夢市場」に改めてリニューアルオープンした。

現在も、週1回1時間、生徒が実習で栽培・加工した新鮮な野菜と手作り加工品、草花苗や鉢植え、卵などを販売し、地域の方々にも大好評である。

⑦日置農高の歴史を知るソテツ



この蘇鉄は大正初年本校校庭健歴

来歷 大正初年 設和10年版 報和22年 中定植込み 支馬前に移植植栽 旧土地 校址 へ移植 (石株) 平 校 地 ・ 終報

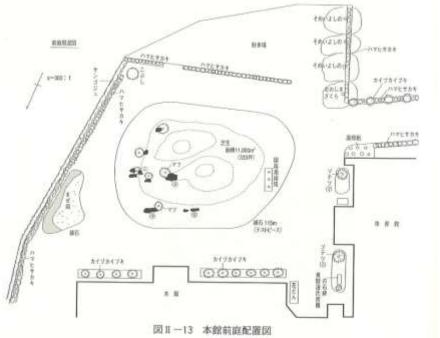
時42年 現於地、移植 時445年 星体完成。僅

星体完成上华山现在地人位数

大正初年に当時の校庭(現日 置小学校)に植えられ、以来 幾度かの移植をされながら本 校の歴史を見守ってきたソテ ツである。学校の移転時にも 原稿地へ移植され、現在は体 育館前に昭和45年に移植された。

8本館前庭





昭和43年から2年間、県の学校緑化研究校に指定されたことから、校内の緑化計画を本格的に行い、当時農場主任の藤田寛二教諭(後の第14代校長)の設計にもとづいて、土地造成、植樹、整備等すべての作業を教職員、生徒の手で作り上げました。

将来大型バスや多くの乗用車、トラックが進入、駐停車することを考え、本館前を周回できるロータリー形状をするなど、工夫されています。

9中庭





本館とホームルーム棟の間にある中庭の工事は、本館建物の完成と同時に行われた。 宮城県の安積女子高校の中庭を参考にして、どの角度から見てもよい構図になるように広さと 緑、白砂を色の変化や立体的に見えるように設計されている。

庭園には、五葉松、らかんまき、もみじ等が植えられ、排水、給水工事、植栽、芝張りなど三カ月かけて生徒の手で行われました。

⑩屋内運動場西側の庭園



この庭園は、緊急時の 用水確保も考え、池を中 心とした山水庭園として 藤本俊典教諭が設計し た。

池は基礎工事からコンクリート打ちまで生徒の手で行われた。

池を中心としたカエデ、ショウブ、さざんか、つつじ等の植樹は昭和48年度卒業生の奉仕作業として行われた。

⑪はまゆう庭園







創立70周年記念事業の一つとして、油谷町伊上の相沢雪江氏のはまゆう苗の寄贈による「はまゆう庭園」が造られた。

県の天然記念物に指定されている二位ノ浜海岸に自生している「はまゆう」は、自生群落の北限として学術的に重要なものであり、日置農業高校では、「はまゆう」の保護活動を昭和40年から行っており、大津緑洋高校日置校舎の今も伝統を引き継ぎ、新入生歓迎遠足も兼ねて学校行事として二位ノ浜の清掃活動を行っている。

12校門









現在の地に移転後、学習施設は充実していったが、校門が設置されていなかったため、創立70周年の記念事業として昭和51年10月の70周年記念式典に先立って開門式が行われた。

この校門は、同窓会、卒業生、地元企業の方々の善意の寄付で建てられた。